

〒758-8555 山口県萩市大字江向 510

TEL : 0838-21-7765

e-mail : hg-geo@city.hagi.lg.jp

HP : <http://www.city.hagi.lg.jp/site/hg-geo/>

発行：萩ジオパーク構想推進協議会 事務局

## 萩ジオパーク構想推進協議会臨時総会を開催

11月15日(火)、午後2時から萩市役所において、推進協議会の臨時総会を開催しました。会議では、現地審査における指摘等を受け、規約改正、萩ジオパーク構想のテーマの変更の2件の議題について審議が行われ、それぞれ原案のとおり承認されました。

規約改正は、ジオパーク活動を行う団体間の連携を図るため、地域振興部会に地域ごとの会議を設置するものです。テーマの変更は、「火山に生まれた萩の大地で地球3億年の歴史を学び・今に生かし・未来へ伝える」を「火山に生まれた萩の大地で地球の歴史を学び・今に生かし・未来へ伝える」に変更するものです。

また、日本ジオパーク認定見送りに係る今後の対応について、日本ジオパーク委員会審査結果報告書で指摘のあった「管理組織・運営体制」、「学術支援体制の強化」及び「ジオパークの拠点施設の整備によるジオパークの可視化」について協議し、平成29年度に、再度日本ジオパーク認定を目指すことを決定しました。

懸案であった萩まちじゅう博物館との関係については、明確に区分を行い、来訪者が萩まちじゅう博物館を意識することなく、萩の大地の遺産とその上の自然・文化・歴史を通して、地球の多様な物語を学び楽しむことができるように整理してまいります。

## 日本ジオパーク全国大会—伊豆半島大会—に参加して

地域おこし協力隊 内田真太郎

今回の参加によって、日本ジオパークネットワークの経緯・目的・会員についての基礎知識を学ぶことができました。また、各地域ごとに活動内容や捉え方も異なり、それぞれのもつ個性を楽しむ機会が急速に拡大していることを実感することができました。日本におけるジオパーク活動は、大地の遺産を保護・保全しつつ、地域の持続可能な開発を目指すものであることを理解しました。

グループワークや懇親会を通じて、各会員の意見をヒアリングする中で、日本ジオパーク認定地域のこれ以上の拡大について、賛否両論の意見があることを感じました。日本ジオパークネットワークの定義や将来性について、参加者の捉え方がまちまちであることも実感しました。その背景には、日本ジオパークネットワーク自体が、まだ手探りの段階であることを意味しているように感じました。

参加者の関心が高い内容としては、地域振興としてジオパークでの観光業の成立性や実態を質問される方が多くいらっしゃいました。日本ジオパーク認定を目指す地域においては、先の成功事例をヒアリングすることで、自身も持続可能な地域振興を成し得るものなのかを模索する姿勢と解釈しました。持続可能な地域振興には、持続可能な収入なくしては活動そのものを持続させることが困難であることを、関心の高さから理解しました。

最後に、日本ジオパークは、認定を目指す地域の拡大が見込まれる“成長期”であること。しかしながら、既に認定された地域の方々の意見としては、「更なる拡大には賛成できない」。逆に、「認定地域を絞り込むべき」との意見も多く聞かれました。その背景として、どこの地域も日本ジオパーク認定地となると、ジオパーク全体の質が下がり、認定のメリットが薄れてしまうことへの懸念が感じられました。今後の日本ジオパークネットワークの動きを注視しつつも、日本ジオパーク認定を目指す萩市として、認定後の展望をより明確に示す必要があると感じました。



(ポスターセッションで萩をアピール)



(全国の仲間とネットワークづくり)

## 耳よりな話 “明倫小学校区にもジオパーク”

萩市立明倫小学校長 椿 義憲

10月17日(月)、萩・阿武小中学校事務部会の研修会で、ジオパーク支援員の樋口尚樹さんから、「萩三角州をジオる」というお話を聞きました。「萩の三角州は、火山がつくった?!」から始まり、「萩の三角州はいつできたのか」。そして、慶安5年(1652)、宝暦元年(1751)ごろ、安政元年(1854)ごろの萩城下町絵図や昭和22年(1947)と現在の写真から、萩の三角州の開発の状況や土地利用の移り変わりをたどりました。

注目したいことは、城下町は三角州の自然地形に配慮し、その微妙な高低差を巧みに利用して町づくりが行われていたということです。標高が高い三角州の北側には上級武家地・寺町・町人地が置かれていて、現在の堀内から浜崎町(吹上 標高7.6m)、北古萩町(享徳寺前 標高6.8~約9m)などがこれに当たります。明倫小学校は標高が2mです。かつて水田や蓮田があり、洪水の時には遊水地となっていた所で、三角州の中でも低い場所に位置しています。

ジオパークといえば、「龍が通った道」の弥富・小川地区や笠山の越ヶ浜地区が思い浮かびますが、明倫小学校区である萩三角州もジオパークの見どころであることを再認識しました。校区内を歩き、微妙な高低差を確かめながら、自然との関わりを理解し、併せて防災や減災についての意識を高める学習に結び付けることができるように思いました。“耳よりな話”でした。



(浜崎吹上の町並み)

## 小学生、萩の大地の成り立ちを学ぶ! ~萩・海のパラダイスツアー~

日本財団「海の学びミュージアムサポート」の助成を受け、萩市内の全小学校2年生(複式学級は1年生も含む)を対象に、萩博物館などで構成される実行委員会によって、6月から10月まで5回に分けて、大島と須佐の両地域で実施されました。JR山陰本線の特別列車から日本海の景色などを眺めながら、両地域の大地の成り立ちなどを、漁船や遊覧船に乗って学びました。萩ジオパーク構想推進協議会からは、伊藤靖子と樋口尚樹が講師として参加しました。

海に浮かぶ阿武火山群の大島や宇田島が見える場所では、列車を止めて、火山噴火の仕組みや萩の火山の特徴などを学びました。また、小学校の理科の教科書にも写真が掲載されている須佐の置岩では、地層のでき方や砂岩と泥岩の違いなどを、実際に岩石に触れて観察しました。本来、地層のでき方や火山噴火は小学6年生で学びますが、実地に火山地形や地層を間近に見ることで、大地のでき方や動きがイメージできたようでした。



(右上: 大地のでき方について説明を聞く児童たち)

(右下: 特別列車の窓から特徴のある島の景色を見学)



## 11・12月の予定

- ジオパーク学習講演会 11月29日(火) 14:05~15:55、会場: 福栄小・中学校ランチルーム、主催: 福栄小・中学校
- 萩ジオな教育・現地岩石採集会 12月11日(日)、採集場所: 須佐地域 \*理科教材岩石キット制作のための石採集を行います。
- 萩ジオカフェ 12月15日(木) 14:00~15:30(昼の部)、18:30~20:00(夜の部) 会場: ジオパーク推進課 \*「萩ジオパーク構想」について、これまで何をしてきて、これからみんなで何ができるのか、ざっくばらんに語り合います。参加費: 100円(茶菓子代、持ち込み歓迎) 【問合せ・申し込み】ジオパーク推進課 21-7765